

# 子ども・子育て家庭 意識・生活実態調査結果概要について

## 調査概要

### 1 調査の目的

平成20年4月に施行された「なごや子ども条例」に基づく子どもに関する総合計画（次世代育成支援対策推進法に基づく「名古屋市次世代育成行動計画」後期計画を兼ねる）を策定するにあたり、子どもや子育て家庭の意識や生活実態を把握し、計画の基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査概要

(1) 調査対象 住民基本台帳から無作為に抽出した、下表の年齢に該当する子どものいる世帯

対 象 年 齢	抽出数	調査対象者
平成20年度に小学校5年生～高校3年生に該当する年齢の子ども (平成2年4月2日～平成10年4月1日に出生した子ども)	4,500	保護者 子ども
平成20年度に小学校4年生以下の子ども (平成10年4月2日～平成20年5月31日に出生した子ども)	5,500	保護者

(2) 質問項目 保護者50問（共通質問21問、子どもの年齢に応じた質問29問）、子ども36問

(3) 調査方法 郵送で配布し、郵送で回収した。

(4) 調査期間 平成20年10月10日～10月31日

(5) 回収結果

区分	発送数	回収数	回収率
保護者	10,000	3,649	36.5%
子ども	4,500	1,411	31.4%
合 計	14,500	5,060	34.9%

## 調査結果の概要

・保護者の調査結果

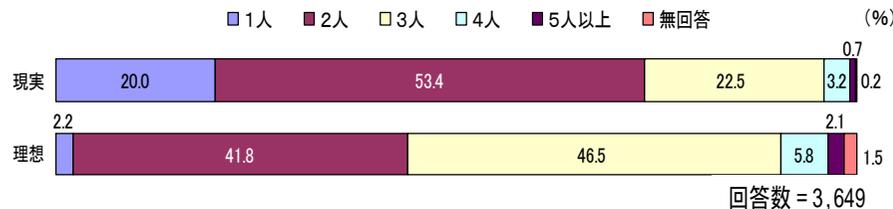
・子どもの調査結果

調査結果の詳細については、冊子の該当ページを参照してください。



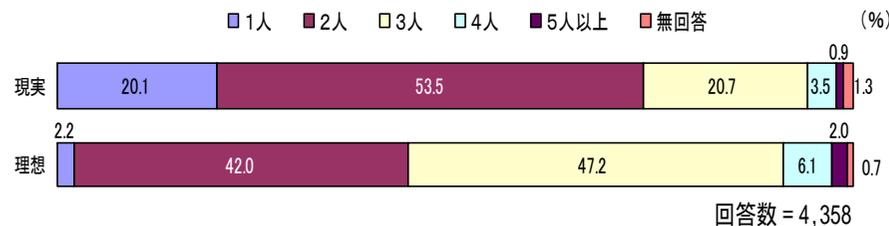
理想の子どもの数と現実の子どもの数 (8 ページ)

今回の調査、平成 15 年度の調査共に、理想としてほしい子どもの数の平均は 2.63 人、実際の子ども数の平均は 2.11 人



～「子育てに関する意識・ニーズ調査(平成 15 年度)」結果～

( )対象者は0歳から11歳の子どもの保護者



子どもの数が理想より少ない理由(3つまでの複数回答)(8,9 ページ)

理由としては「経済的に余裕がない」が最も多い。平成 15 年度に比べ、今回の調査では大部分の項目において割合が減少

本調査 (回答数=1,756 合計=3,563)		子育てに関する意識・ニーズ 調査(15年度)	
経済的に余裕がない	47.2%	経済的に余裕がない	53.7%
身体的・精神的負担大	24.5	身体的・精神的負担大	29.4
年齢上の理由	17.5	仕事との両立	20.3
仕事との両立	16.9	年齢上の理由	19.2
住宅が狭い	16.7	住宅が狭い	19.1
今後予定あり	15.5	今後予定あり	15.4
保育サービス等不備	10.3	保育サービス不備	13.8
健康上の理由	10.1	子どもをとりまく環境	12.1
子どもをとりまく環境	8.9	健康上の理由	10.0
自分の生活楽しむ	7.1	自分の生活楽しむ	6.5

子育てを通じて「良かった」と感じたこと(3つまでの複数回答)(10 ページ)

「子どもといることで幸福感を感じる」(73.6%)、「自分も成長できた」(51%)の割合が平成 15 年度に比べ大きく増加

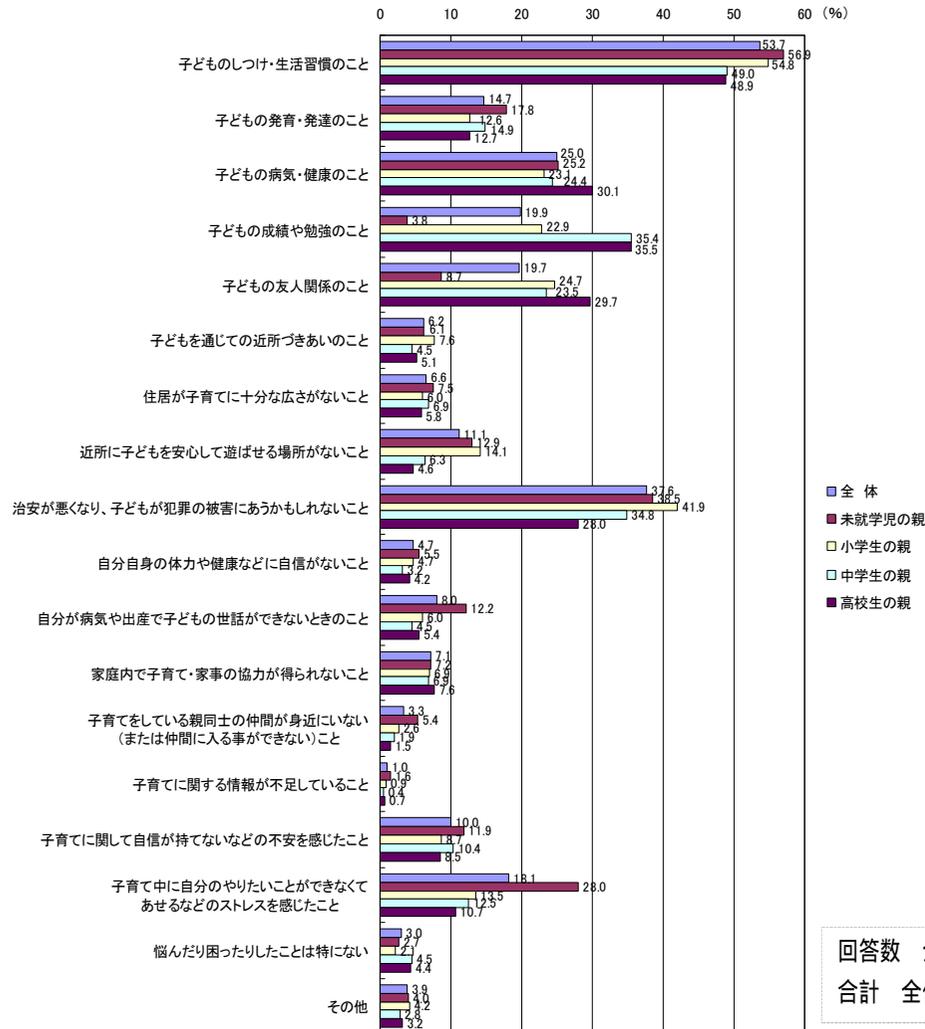
本調査 (回答数=3,649 合計=10,320)		子育てに関する意識・ニーズ調査(15年度)	
子どもといることで幸福感を感じる	73.6%	子どもといることで幸福感を感じる	68.9%
子どもとともに自分も成長できた	51.0	子の成長に充実感を感じる	47.6
子の成長に充実感を感じる	47.0	子どもとともに自分も成長できた	46.8
自分の親へ感謝できるようになった	36.9	自分の親へ感謝できるようになった	41.7
家族の絆が強まった	25.7	友達が増えた	25.0
友達が増えた	25.4	家族の絆が強まった	24.8
視野が広がった	21.1	視野が広がった	22.6



# 子育てへの不安・支援への期待

子育てをしている間の悩みや不安（3つまでの複数回答）（11ページ）

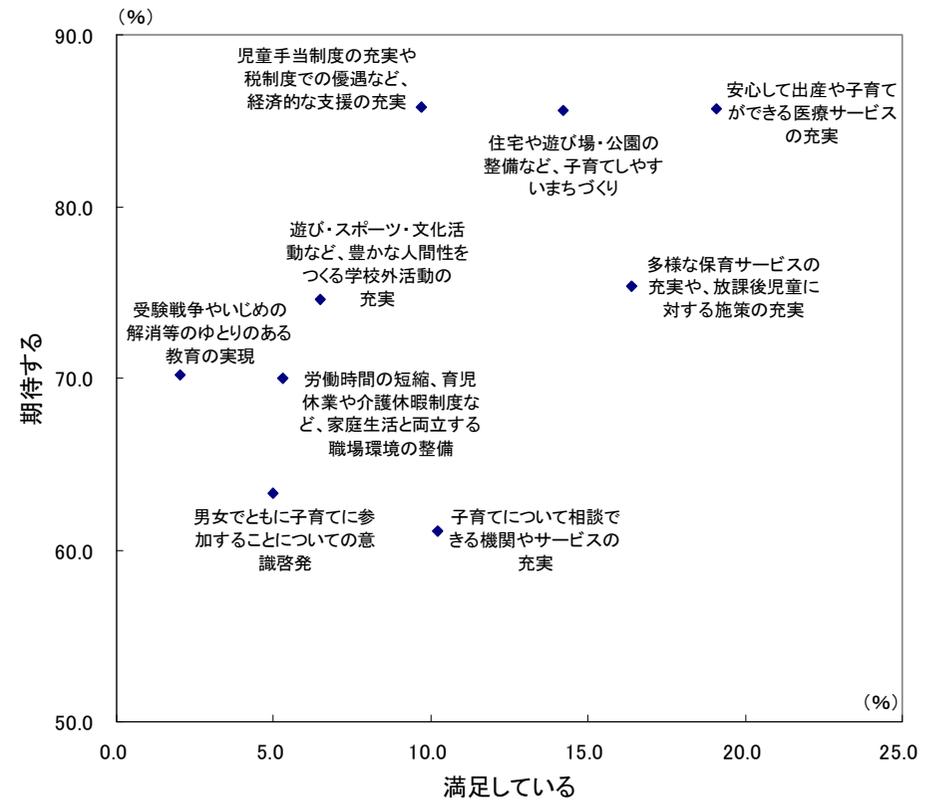
すべての年代を通じて、「子どものしつけ・生活習慣」のことが親の一番の悩みである



回答数 全体 = 3,649  
合計 全体 = 9,268

名古屋市の子育て支援への期待と満足度（44ページ）

名古屋市の子育て支援に対する期待度が80%を超えるものは「経済的な支援の充実」(85.8%)、「医療サービスの充実」(85.7%)、「住宅や遊び場、公園の整備」(85.6%)。この3項目のうちでは「経済的な支援の充実」(9.7%)の満足度が低い

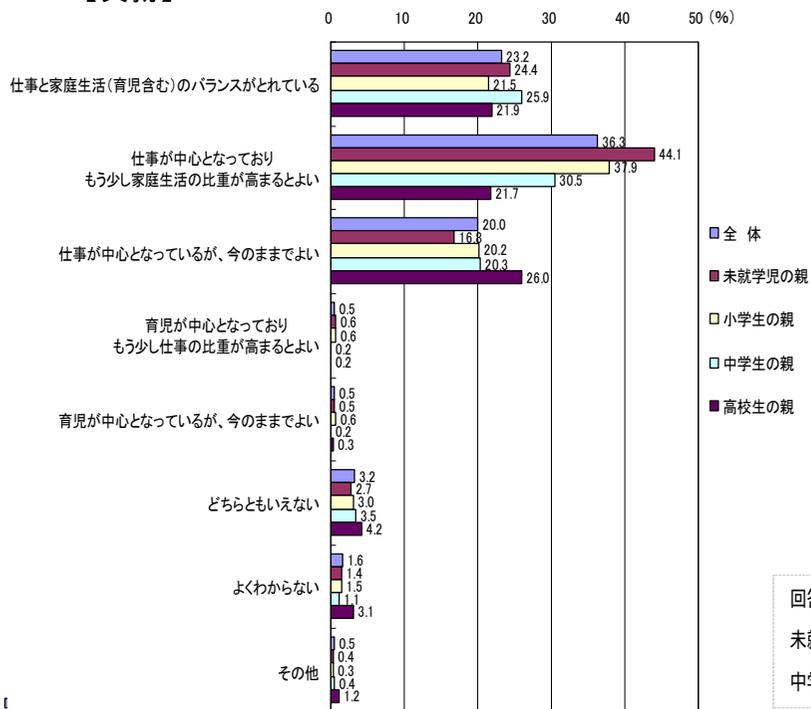


# 仕事と生活のバランス

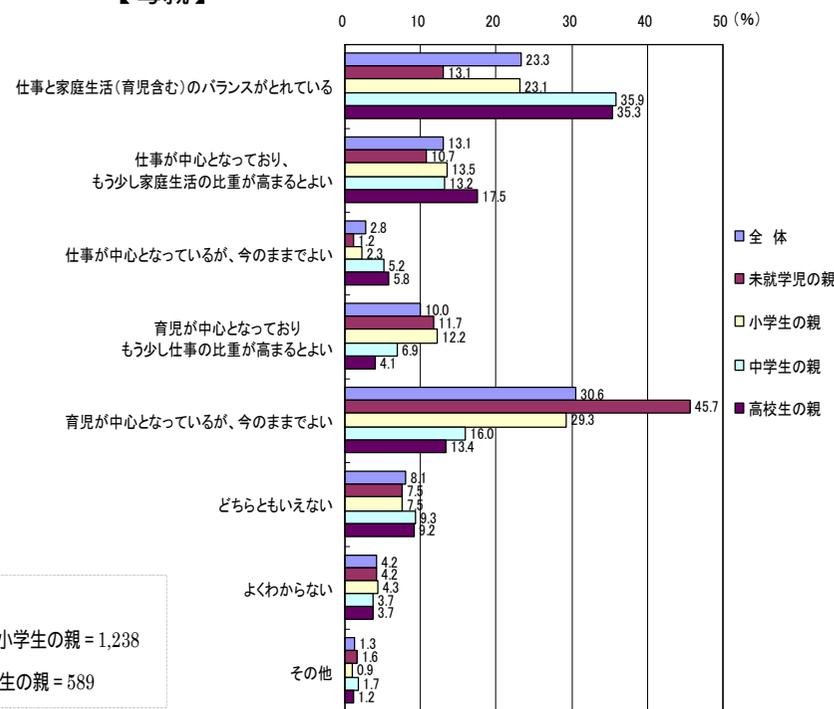
仕事と生活のバランス (32,33 ページ)

父親の 36.3%は「仕事を中心で、家庭生活の比重を高めたい」、母親の 30.6%は「育児が中心だが、今のままでよい」と感じている

## 【父親】



## 【母親】



回答数 全体 = 3,649、  
未就学児の親 = 1,277、小学生の親 = 1,238  
中学生の親 = 463、高校生の親 = 589

## 出産前後で離職、転職した母親の就業継続希望状況 (31 ページ)

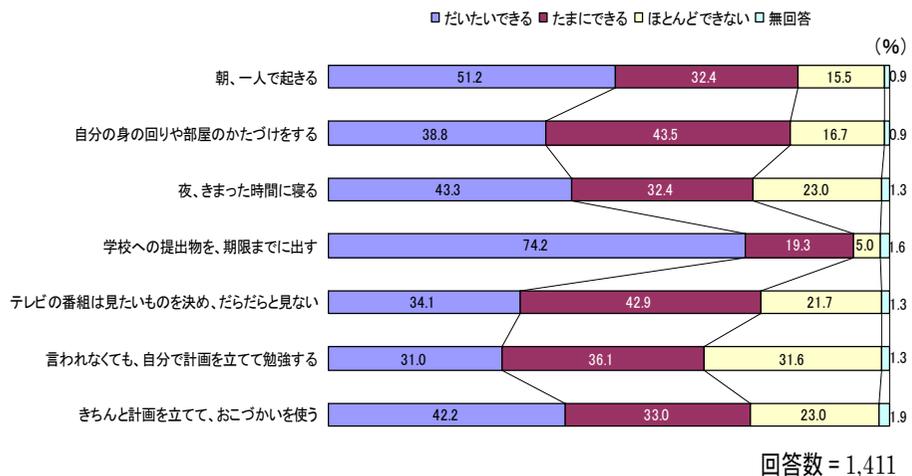
出産前後に離職・退職した母親のうち、育児休業制度や保育サービスなどの両立支援のための環境が整っていれば仕事を続けたかった人は 32.9%



- 保育サービスが確実に利用できる見込みがあれば、続けていた
- 職場において育児休業制度などの仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、続けていた
- 保育サービスと職場の両立支援環境がどちらも整っていれば、続けていた
- 家族の考え方(親族の理解が得られる)など仕事をする環境が整っていれば、続けていた
- いずれにしても続ける希望はなかった
- その他
- 無回答

自分でできること (110 ページ)

「学校への提出物を、期限までに出す」ことが「だいたいできる」子どもは 74.2%



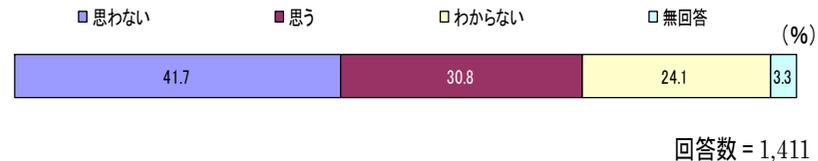
自分のことが好きかどうか (128 ページ)

「どちらともいえない」(60.2%) の割合が一番多い



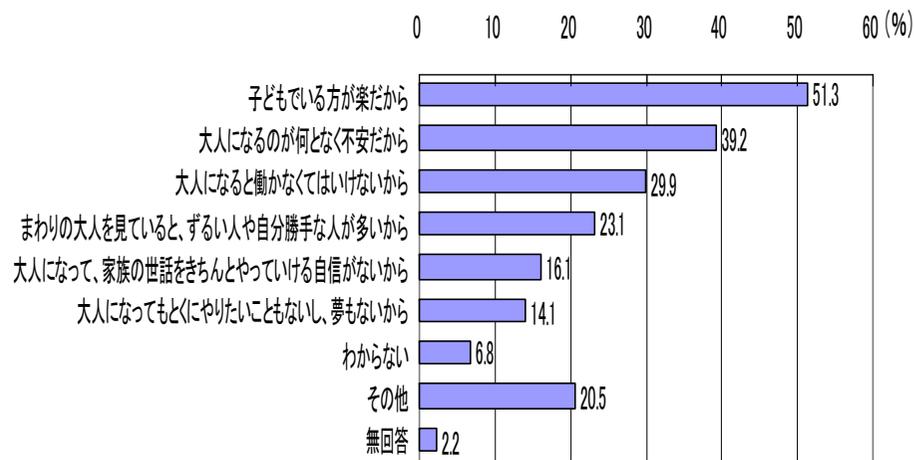
早く大人になりたいと思うか (129 ページ)

早く大人になりたいと「思わない」(41.7%) 子どもが、「思う」(30.8%) 子よりも多い



早く大人になりたくないと思う理由 (複数回答)

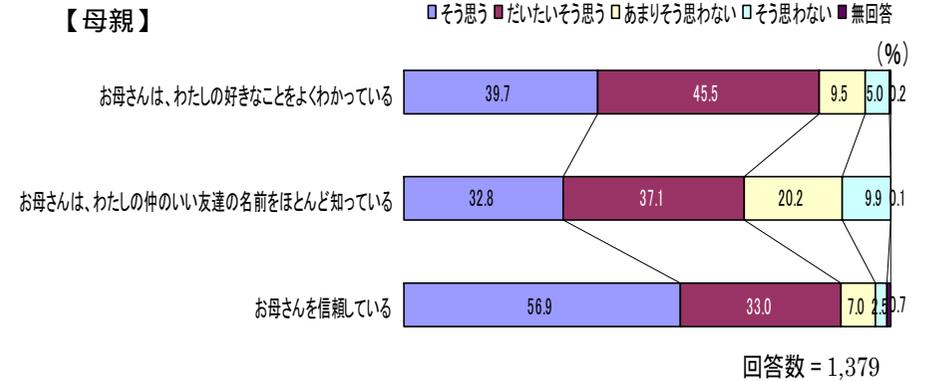
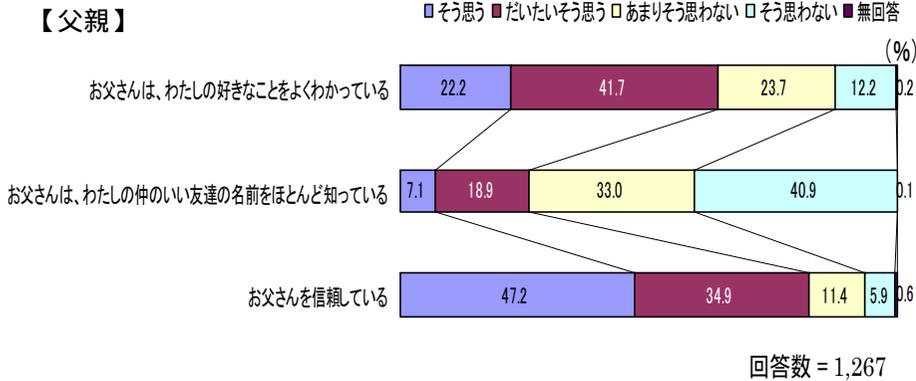
主な理由は「子どもでいる方が楽だから」(51.3%)、「大人になるのがなんとなく不安だから」(39.2%) などである



# 子どもと周囲との関係

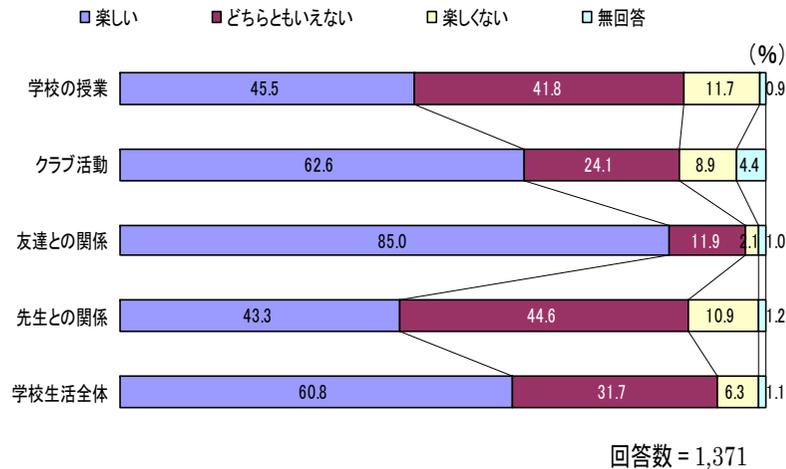
## 両親との関係 (119 ページ)

父親については、母親と比較すると、子どもの好きなことや友達の名前を「あまり知らない」「知らない」の割合が高い



## 学校での生活 (121 ページ)

クラブ活動(62.6%)、友人との関係(85%)、学校生活全体(60.8%)について半数以上が楽しいと感じている



## 近所の人たちとの関係 (123 ページ)

「ほめられたりしかられたりする」、「話をする」子どもは10%程度

